

島田市文化芸術推進計画（案）



令和2年3月

島 田 市

表紙イラスト：永井秀樹氏プロフィール

1974年御前崎市生まれ。島田市内の高校卒業後、東京デザイナー学院に入学、その後地元の印刷会社へ入社。10年間の会社員生活を経て、再上京。現在、歴史ものから現代もの、ミステリー、官能を中心とした分野で活躍中。2019年10月25日より静岡新聞にて連載中の「家康 知命篇」（作：安部 龍太郎氏）にて挿画を担当。

2019年3月23日にオープンした、諏訪原城ビジターセンター内のジオラマ台の3方の壁面に戦国時代の雰囲気をかもし出したイラストを描いている。

2015年8月29日～2018年1月26日まで静岡新聞に連載されていた小説「家康」の挿画を、2017年3月20日から連載終了まで担当したこともあり、2017年3月には、島田市民総合施設プラザおおるりでイラスト体験ワークショップを開催し、中高生を中心にイラストレーターの仕事についてわかりやすく解説した。

ごあいさつ

島田市では、大井川がもたらす豊かな恵みと、時に「暴れ川」と呼ばれる厳しさをあわせ持った自然環境、これらと織りなす人々の活動によって、様々な文化が育まれ、今日まで受け継がれてきました。

一方、近年の課題である少子高齢化による人口減少や地域コミュニティの衰退などについては、高度情報化の進展により日々変化する社会情勢に即応し解決することが急務となっております。



こうした状況を踏まえ、平成30年に策定した「第2次島田市総合計画」において、「笑顔あふれる 安心のまち 島田」を目標に、市民・事業者・行政の協働のもと、豊かな自然や先人たちから受け継がれてきた文化、そして今を生きる私たちが創造する新しい文化をまちづくりに活用すべく、各種事業に鋭意着手してまいりました。

このたび、文化芸術に関する取り組みを一層推進するため、市民の皆様をはじめ、個人・団体・事業所そして行政のそれぞれが、文化芸術の担い手であることを認識し、相互に連携することで「大井川の恵みが育む文化芸術を紡ぎ、誰もが心豊かになれるまち『しまだ』」を目指し、「島田市文化芸術推進計画」を策定しました。

この計画では、市民の皆様の日常に潜んでいる文化芸術の存在を意識していただけるよう、活動事例を紹介しています。また、文化芸術と他分野を掛け合わせた事業展開は、文化芸術の汎用性や親和性の高さを示すものとして、文化芸術の恩恵を市民の皆様にもたらすものとなっています。

今後、この計画に基づき、文化芸術を「まもる」・「はぐくむ」・「つくりだす」・「つなげる」を4つの柱として事業を展開し、文化芸術と他分野との連携を推進しつつ、ヒト・モノ・コトの架け橋となる交流都市を市民の皆様と共に作り上げていきたいと考えております。

結びに、この計画を策定するにあたり貴重なご意見やご提言をいただきました島田市文化芸術推進協議会委員をはじめとする関係者の皆様、各種調査等で貴重なご意見をお寄せいただいた多くの市民の皆様、関係機関・団体の皆様に、心より御礼申し上げます。

令和2年3月

島田市長 染谷絹代

目次

第1章 計画の概要	1
第1節 計画の趣旨・背景	1
第2節 計画の位置づけ	1
第3節 計画の期間	2
第4節 計画の策定方法	2
第5節 対象となる文化芸術の範囲	4
第2章 文化芸術の現状と課題	5
第1節 島田市の現況	5
第2節 文化的営み・資源の整理	7
第3節 市民・事業所・文化団体等の意識把握	8
第4節 課題の整理	9
第3章 計画の基本的な考え方	12
第1節 基本理念	12
第2節 目指す姿	13
第3節 施策の視点	13
第4節 施策の体系	14
第4章 施策の展開	17
施策1 誰もが参加できる環境づくり	17
施策2 にぎわいを創出する人材の育成・確保・活用	21
施策3 異文化・多世代交流の促進	25
施策4 人をつなぐ情報の集約と発信の強化	29
施策5 大井川が育んだ地域の文化・習慣等の保存と継承	33
施策6 大井川を核とした地域固有の文化の活用と創出	37
施策7 郷土への愛着や誇りの形成	41
施策8 事業者・団体等の柔軟な連携	45
施策9 地域課題へのアプローチ	49
第5章 計画の推進	53
1 期待される役割	53
2 推進体制、事業の評価と計画の見直し	54